

教習項目

9

特徴的な事故と事故の悲惨さ



① 特徴的な事故実態

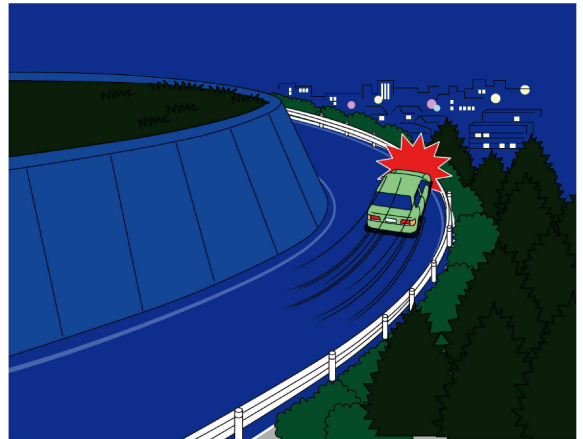
車は、便利で快適な乗り物ですが、その反面、使い方を誤ると悲惨な交通事故を起こす恐ろしい凶器にもなります。

交通事故は、大きな社会問題であり、「交通戦争」といわれるほど、毎年多くの人々が交通事故で死傷しています。

① 交通事故の特徴

① 発生時間帯

死亡事故は、16時から20時の時間帯に多く発生しています。この時間帯に多発しているのは、昼間に比べて運転に必要な情報がとりにくく、認知、判断が遅れること、交通量が少なくなって速度を出しやすく、また、注意力が散漫になることなどが原因としてあげられます。



② 発生場所

死亡事故は、交差点とその付近で最も多く発生しています。

交差点は、上り下りの交通だけでなく、左右の交通も加わり、また、車両や歩行者が交わり合い、他の交通とかわり合いながら通行する場所だからです。

これに次いで単路の事故が多くなっています。単路は、速度を出しやすいこと、無謀運転をしがちなことなどが関係しています。

次にカーブ・屈折地点が続きます。速度の出し過ぎやハンドル操作のミスなど、安全を無視した運転が原因となっています。

◆死亡事故多発の道路形状

1位	交差点とその付近
2位	単路
3位	カーブ・屈折

3 運転者の年齢

死亡・重傷事故数を年齢層別にみると、65歳以上の高齢運転者が最も多くなっています。

若年運転者（16歳から24歳まで）による死亡・重傷事故は、このところ減少傾向にありますが、死亡事故原因では、最高速度違反等の無謀運転や漫然運転が多くみられ、自己の運転技術を過信している傾向があります。

4 運転経験

運転経験別にみると、経験年数が短い人ほど事故を起こす割合が高くなっています。これは、危険を予測する能力や安全運転をしようとする心構えが十分でないからといえます。

5 法令違反

死亡事故の要因となった法令違反の中では、漫然運転が最も多く、次いで運転操作不適、脇見運転、安全不確認の順になっていますが、若年運転者では、最高速度違反が最も多くなっています。

いずれも運転者の心構えと、ちょっとした注意や危険予測で防げるものです。

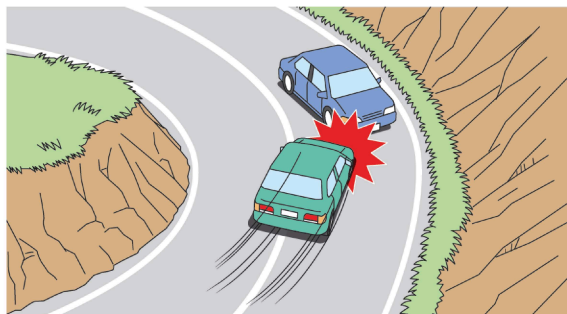
2 交通事故のパターン

交通事故は、いくつかのパターンに分けることができます。いずれも、運転者の心がけ次第で防ぐことができます。

1 速度の出し過ぎによる交通事故

速度を出し過ぎると、危険を回避することができず、重大事故につながります。

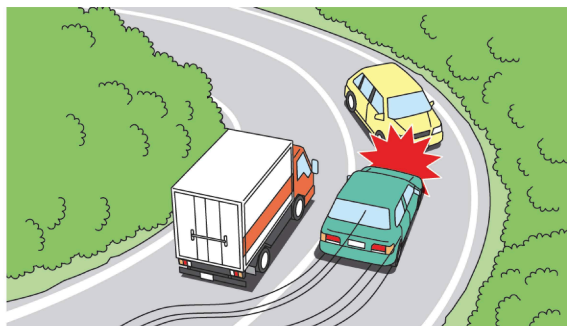
常に道路や交通の状況に応じた安全速度を守ることが大切です。特にカーブを走行するときは、その手前で速度を十分に落としましょう。



2 無理な追越しによる交通事故

追越しは、多くの危険をとまないます。安全であることが確認できないときは追越しをしてはいけません。

◆カーブでの追越しは非常に危険



3 脇見運転による交通事故

運転中に脇見をすることは、大変危険です。周囲の風景や同乗者との会話やカーステレオ、携帯電話などの操作またはカーナビゲーションの画像を注視するなどして、脇見運転をすることは、絶対しないようにしましょう。



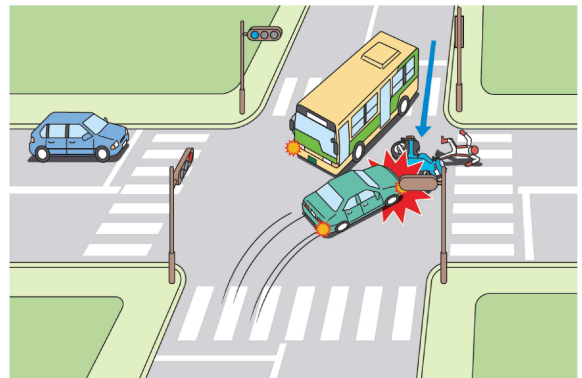
4 交差点での交通事故

① 右折時

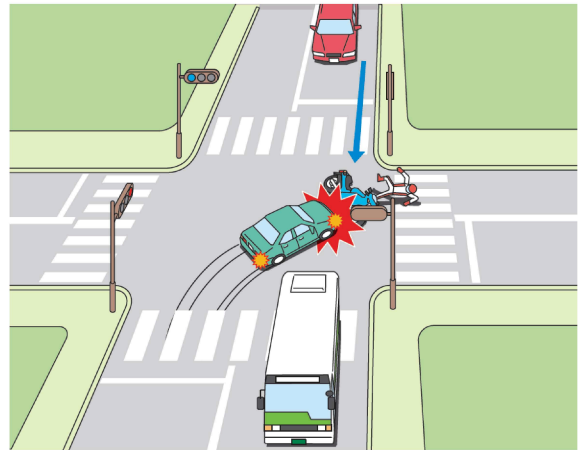
右折するときは、対向車のかげになって見えないところ（死角）から二輪車などが直進することがあるので、よく安全を確認することが大切です。

見えないところの危険を予測しながら運転しましょう。

◆対向車のかげから直進してきた二輪車との衝突

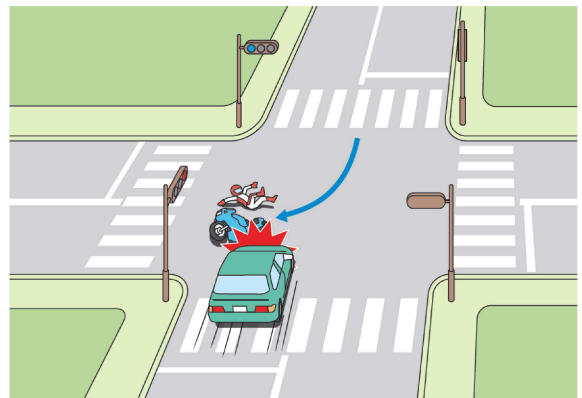


◆大型車の通過直後、追従してきた二輪車との衝突



② 直進時

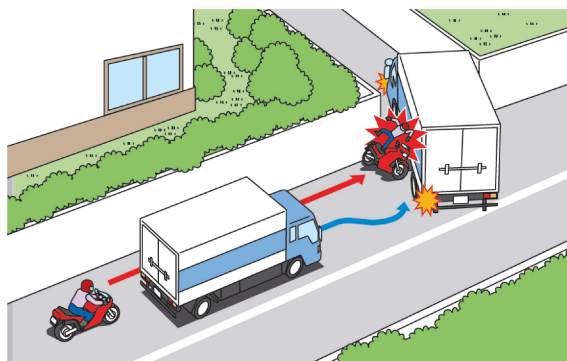
交差点を直進する場合、対向右折車が止まるだろうと思って安易に直進をしてはいけません。特に対向右折車の動きに注意しましょう。



③ 左折時

前車の動きに注意しましょう。前車の速度が落ちたからと安易に側方通過をすると、このような事故となります。

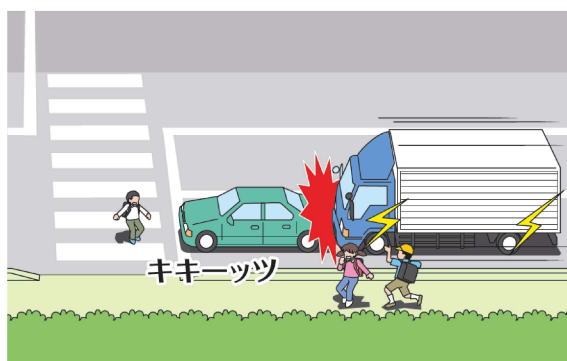
また、狭い交差点の場合、左折車は一度道路中央寄りに進路をとった後左折してきますので、交差点手前で停止しましょう。



④ 追突

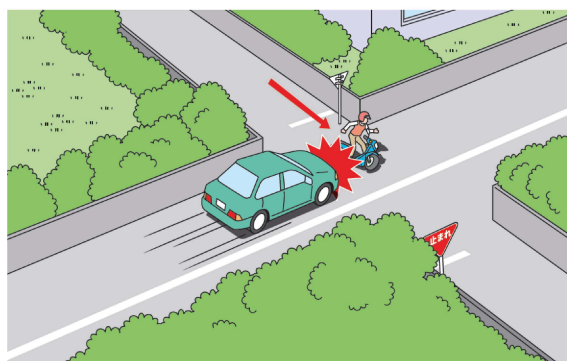
前車が急停止しても追突しないだけの車間距離をとるとともに前車ばかりでなく、その前方の状況にも注意しましょう。

また、道路に駐車中の車両に追突しないよう注意しましょう。



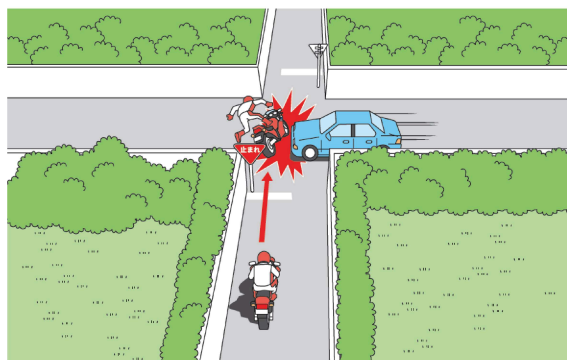
5 優先道路通行中の交通事故

優先道路を通行している場合でも、突然、脇道から車や歩行者が出てくることがあるので、安全を確認し、注意して進行しましょう。



6 出会い頭事故

出会い頭事故を防止するために、一時停止（徐行）と安全確認を徹底してください。

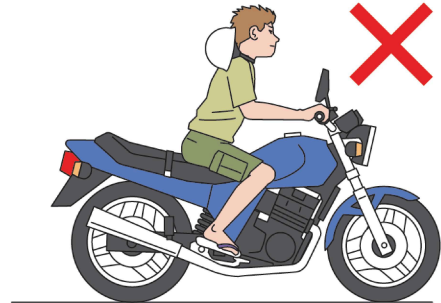


② 二輪車の露出性と傷害

二輪車は、全身が常に外部にさらされているため、事故を起こした場合は重大事故となる危険性が非常に高くなります。

1 服装など

- ① 体の露出がなるべく少なくなるような服装をし、できるだけプロテクターを着用しましょう。
- ② 他の運転者から見て、よく目につきやすいものを着るようにしましょう。
- ③ げたやサンダルなど、運転の妨げになる履き物をはいて運転してはいけません。
- ④ 夜間は、反射性の衣服又は反射材のついた乗車用ヘルメットを着用するようにしましょう。
- ⑤ 同乗者についても同様です。



2 ヘルメットの着用

- ① 乗車用ヘルメットをかぶらないで二輪車を運転してはいけません。
また、乗車用ヘルメットをかぶらない者に乗せて大型自動二輪車や普通自動二輪車を運転してはいけません。
- ② 乗車用ヘルメットは、PS(C)マークかJISマークの付いたものを使い、あごひもを確実に締めなど正しく着用しましょう。工事用安全帽は乗車用ヘルメットではありません。

③ 交通事故の悲惨さ

交通事故を起こすと、運転者は、**民事上の責任**（損害賠償）、**刑事上の責任**（懲役、禁錮、罰金）を負うとともに、**行政処分**（運転免許の取消し、停止）を受けることになります。

また、交通事故によって、傷つき苦しむのは運転者本人だけでなく、家族も経済的損失と精神的苦痛などの大きな負担を負うことになります。

さらに、被害を負わせた相手やその家族に対しても、耐えがたい苦痛を強いることになります。

車を運転するときは、このような交通事故の悲惨さをしっかりと心に刻み、安全運転に努めましょう。

◆交通違反（事故）の責任とは……。

<p>民事上の責任（損害賠償） 人の命は、賠償すれば済むというものではありません。</p>	<p>刑事上の責任（懲役・禁錮・罰金） 事故で人を死傷させた場合、過失がある限り刑事責任を負うことになります。</p>	<p>行政上の責任（免許の取消し・停止） 車の運転者にとって厳しい処分です。</p>

被害者の悲しみと加害者の消えない罪

父と母へ

ある日突然に、私の父と母は逝ってしまった。

父と母が乗っていた軽トラックに、一時停止を無視した乗用車がぶつかってきたのです。

母は即死。父は手術中に亡くなりました。昨日まであんなに元気にして、孫の入学を楽しみにしていたのに、そして、妹の結婚式だと喜んでいただけなのに、そんな父と母は突然いなくなってしまったのです。

今まで幸せだった生活から、一挙に地獄に落ちたような気持ちでした。人生が変わったのです。

被害者となって一番辛いことは、加害者の方の顔を見ることです。恨んではいませんが、許せないのです。顔を見るたび、「この人が私たちを変えたんだ、この人のせいで、父母が死んだんだ。」と思うと、胸が苦しくなり、涙が止まらないのです。四十九日以降は、「もう、こないで欲しい」と保険会社の人を通じてお断りしました。もう、父や母は戻ってこないのです。

加害者の方も一生この罪を背負っていくのでしょうか。

「なぜ、こんなことになってしまったのか」、「なぜ、父と母の車にぶつかったのか」、「なぜ、私の父と母が死ななければならなかったのか」……なぜ……なぜ……。

誰も答えを出してくれるわけはありません。……〔略〕……

交通事故のニュースを見るたびに、「被害者と加害者、そしてその家族は、悲しい思いをするんだ」と、いつも胸が痛むのです。

旭川市 NHさん



(北海道交通安全協会発行「癒されぬ輪禍」～交通事故被害者のこえ所収」からの抜粋)

④ 人命尊重の精神

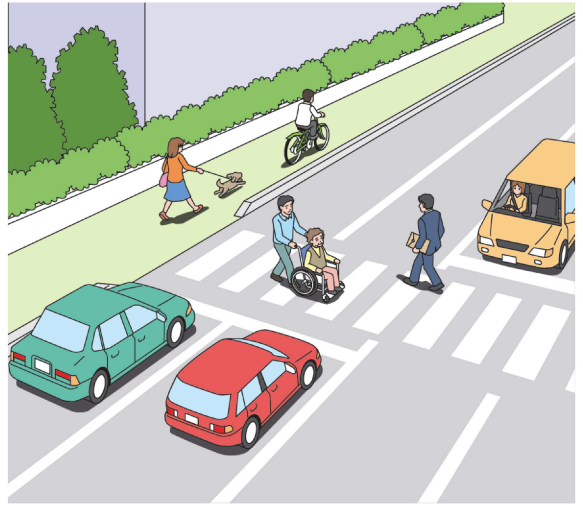
交通事故は、運転者や歩行者などのちょっとした不注意や過失によって引き起こされており、努力次第で防ぐことができるものです。

現在のように、車や人でふくそうする道路の上では、ほんのわずかなルール無視や油断が、すぐ交通事故の原因となります。

運転者一人ひとりが、くるま社会の担い手としての自覚と責任を持たなければなりません。

運転者は、「一歩間違えば、ただちに人命を奪う危険な業務に従事している」ことを、十分認識して、自分の能力のすべてを注いで安全運転に努めなければなりません。

◆思いやりをもった運転を。



1 人命の尊さを知ることが大切

運転者に特に求められるのは「人の生命の尊さを知り、豊かな人間愛を持つ」ことです。

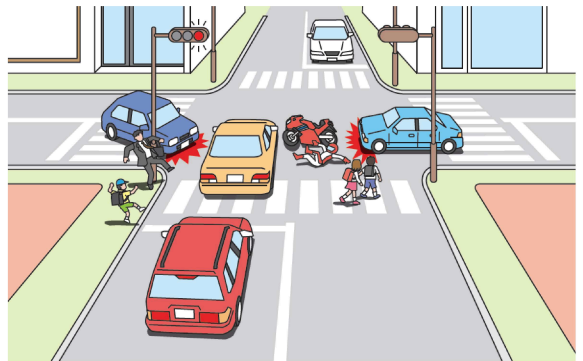
そうすればおのずからスピードがセーブされ、ハンドルの切り方も慎重になり、他人に対して思いやりのある運転ができるようになるでしょう。

2 交通ルールを守ることが安全運転の第一歩

ルールを守らないプレーヤーはスポーツを行う資格がないように、交通ルールを守らない運転者は車を運転する資格はありません。

交通ルールは、人や車が安全に進行できるように定められたものですから、まずルールを守ることが安全運転の第一歩です。

◆交通ルールを守らない運転者は、車を運転する資格はありません。



3 運転技能を過信しないこと

運転技能の過信は、無理な運転につながります。「自分は運転がじょうずだ」と思っていて、つまり自分の運転技能を過信したことが原因となって、大きな事故を起こした例は少なくありません。

経験の浅い人は、よりいっそう慎重な運転をし、ベテランであっても、謙虚な気持ちで運転することが大切です。



4 責任感を持つこと

運転者は、交通ルールを守り、安全運転する義務がありますが、同時に、事故を絶対に起こさないという強い自覚と責任感を持たなければなりません。

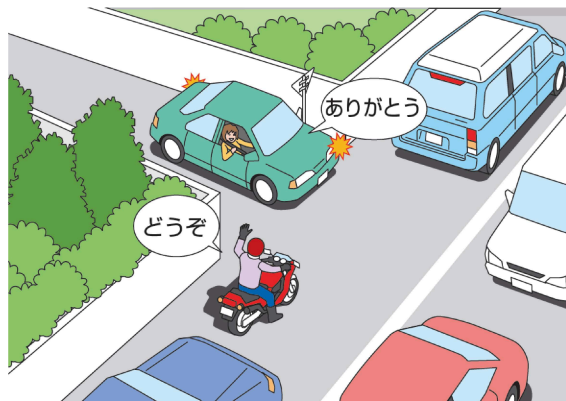
5 譲り合いの気持ちが大切

道路は、お互いに譲り合って利用すべきものです。

自分本位の考え方を捨てて、譲り合いの気持ちを持って、運転するように心がけましょう。

実際の交通の場では、ルールだけでは解決できないことがたくさんありますが、これを解決してくれるのが譲り合いの気持ちです。

◆お互いに譲り合いましょう。



5 シートベルトの重要性

1 シートベルトの着用

運転者や同乗者の中には、面倒で窮屈、自分だけは大丈夫などといってシートベルトを着用しない人がいますが、シートベルトの着用は、次のような効果があります。

シートベルトを備えている自動車を運転するときは、運転者自身がこれを着用するとともに、助手席や後部座席の同乗者にもこれを着用させなければなりません。



2 シートベルトの着用の効果

- ① 衝突したとき、頭や胸を打つことが少ない。特に、後部座席の同乗者の場合は、他の同乗者に危害を加える危険が少ない。
- ② 横転や転落事故の場合、ケガが軽くてすむ。
- ③ ドアが開いても、車外に放り出されない。
- ④ 運転姿勢が正しくなり、ハンドル操作が確実になる。
- ⑤ 動体視力の低下が少ない。
- ⑥ 腰や上半身が安定するため、疲労が少ない。

セーフティエチケット

シートベルトの着用と非着用では、事故が起きた場合の致死率、死者の車外放出構成率に大きく差が出ます。

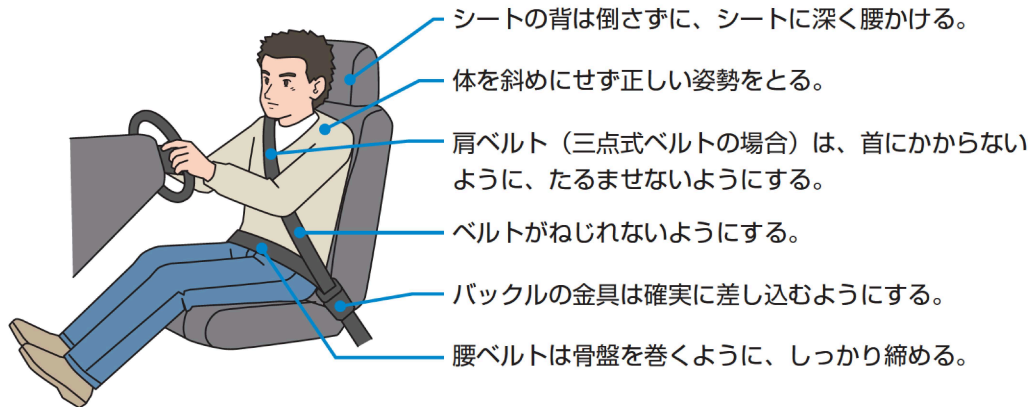
どちらも非着用では着用時よりも13倍も高くなります。

シートベルトをしていたら、死者の大半の人は助かっていたはずなのです。

大切な命を守るため、シートベルトは必ず着けるようにしましょう。

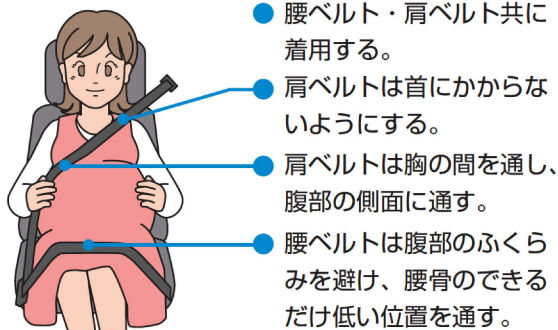
3 シートベルトの正しい着用法

シートベルトは正しく装着すると交通事故にあった場合の被害を大幅に軽減できます。



妊娠中のシートベルト着用法

シートベルトを正しく着用することにより、交通事故の被害から母体や胎児を守ることができます。ただし健康保持上、シートベルトの着用が適当かどうかを医師に確認しましょう。



チャイルドシートの使用法

6歳未満の子どもを車に乗せる場合は、必ずチャイルドシートを取扱説明書などに従って、正しく使用しましょう。事故の被害を軽減するほか、子どもが運転操作を妨げることを防止できます。

